

# 「総合知」の基本的考え方及び戦略的に推進する方策 中間とりまとめ（ポイント）

資料2-1  
中央教育審議会大学分科会  
大学院部会（第107回）  
R4. 6. 16

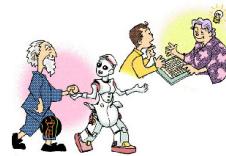
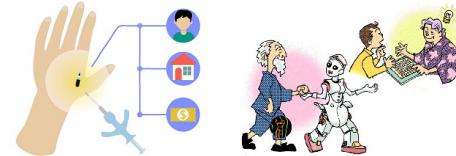
2022.3 内閣府CSTI事務局

第6期科学技術・イノベーション基本計画を踏まえ、総合科学技術・イノベーション会議有識者議員懇談会での検討を経て、本年3月に中間とりまとめ。

## いま、なぜ、「総合知」が必要なのか

世界の研究や技術開発の目的の軸足が、「持続可能性と強靭性」、「国民の安全と安心の確保」に加えて、「一人ひとりが多様な幸せ（well-being）を実現できる社会」に移りつつある。

我が国の科学技術やイノベーションが、世界と伍していくためには、「あらゆる分野の知見を総合的に活用して社会の諸課題への的確な対応を図る」ことが不可欠。



## 「総合知」の基本的考え方

### 総合知

#### 多様な「知」が集い、新たな価値を創出する「知の活力」を生むこと

- 多様な「知」が集うとは、属する組織の「矩」を超えて、専門領域の枠にとらわれない多様な「知」が集うこと。
- 新たな価値を創出するとは、安全・安心の確保とWell-beingの最大化に向けた未来像を描くだけでなく、科学技術・イノベーション成果の社会実装に向けた具体的な手段も見出し、社会の変革をもたらすこと。  
これらによって「知の活力」を生むことこそが「総合知」であり、「総合知」を推し進めることが、科学技術・イノベーションの力を高める

### 総合知の活用イメージ

#### ① 属する組織の「矩」を超えて、専門領域の枠にとらわれない多様な「知」を持ち寄る



「総合知の活用」は、それ自体が目的ではなく、  
新たな価値の創造や課題解決により社会変革するための手段

● 新たな価値を創出  
～科学技術・イノベーション  
成果の社会実装を推進～

● 持続可能性や一人ひとり  
の多様な幸せ（well-  
being）に真正面から向き  
合う

科学技術・イノ  
ベーションを、  
我が国の「勝ち  
筋」の源泉に

# 「総合知」の戦略的な推進方策

## 「総合知」の社会への浸透を踏まえて、段階的に方策を推進

- 総合知の活用事例とともに、基本的考え方を社会に発信
- 総合知を活用する「場」の増加を促進
- 「場」を通じて、人材を育成。人材活用につながる評価手法を構築
- 人材の登用により、社会の幅広い領域で、さらなる「場」を構築

その際の留意点

- ・「専門知」を疎かにしない
- ・“表層”的な文理融合にしない
- ・専門領域のさらなる細分化を引き起さない
- ・方策は、段階的に進められるように設計する
- ・基本的考え方も、時代の潮流の変化に対応

3~5年後

10年後

問い合わせ

ビジョンの形成・共有、課題の設定の初期段階から、多様性を尊重し、よい問い合わせを立てる

「場」の構築

内閣府PJ（ムーンショットや次期SIP）で「総合知」を活用、その成果を周知 (\*1)

進歩効果検証

関係各省や地域のプロジェクトへ展開

研究DX基盤の機能拡充

国や自治体のイノベ支援策制度改革

研究開発PJマネジメント柔軟性向上（検討）

社会への情報発信

◆総合知キャラバン (\*2) ◆総合知ポータルサイト (\*3)

進歩効果検証

◆総合知キャラバン ◆総合知ポータルサイト  
◆「総合知アワード」（検討）

人材育成

総合知の活用経験を「知」として構造化し、  
その過程で人材育成も促進（寄付講座の活用等）

科学技術・イノベーションが直面する  
課題に通ずる人文・社会科学系人材の輩出

人材登用  
(評価)

評価・人事手法（検討）

人材登用

◆地域・社会課題解決 / 新領域創出への評価  
◆産業界での積極登用

相乗効果の期待される方策等

◆地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージ ◆世界と伍する研究大学のあり方 ◆スタートアップ・エコシステム支援パッケージ ◆知財・無形資産の投資・活用戦略の開示及びガバナンスに関するガイドライン ◆創発的研究支援事業 など

我が国の人間社会の科学技術や自然技術、アカデミック・産業界を問わずに、「総合知」を活用する人材は、

### 内閣府プロジェクト (\*1)

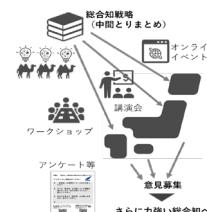
科学技術・イノベーションによる社会への貢献



SIP 戰略的イノベーション創造プログラム  
Cross-ministerial Strategic Innovation Promotion Program

「総合知」の活用、その成果の周知

### 総合知キャラバン (\*2)



ステークホルダーとの対話、「総合知」の認知度向上

ワークショップ  
全国8か所程度（予定）  
参加者には、WSを踏まえて自ら  
発信し、現場レベルからの反  
応・意見・提言のフィードバッ  
クを期待

### 総合知ポータルサイト (\*3)



社会への「総合知」の発信、人や場を繋ぐ